2022 AIR MAIL

from Singapore

シンガポールのシンボルとも言えるマリーナベイ・サンズ。夜景も美しく、多くの観光客や家族連れでにぎわう。

シンガポール子育て事情

保育園の先生：「お子さんお熱はありませんが鼻水が出ていますので、すぐお迎えに来てください」
保護者：「（今日はプレゼンに当たっているのに、どうしよう……）」

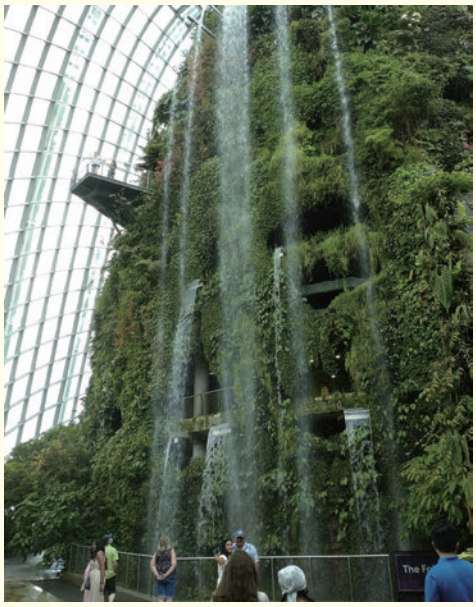
こうした光景が、この小さなシンガポール島では今日もたくさん見られていることでしょう。シンガポールでは、保育園への通園が可能となる体調管理の基準が日本と比べて厳しく、新型コロナウイルスの感染拡大により、一層厳格な運用がなされるようになりました。働く保護者としては、わが子の健康を真剣に祈る綱渡りの毎日です。また、外国籍の子どもには保育園費用の援助は一切無く、保護者は別の意味でも切ない思いをすることになります。

では、シンガポールは子育て中の親にとって血も涙もない環境なのかと問われれば、そんなことはありません。合計特殊出生率こそ 1.12（2021 年）と日本の 1.30（同年）より低い水準にあるものの、住宅支援や税控除を含む充実した結婚・出産・育児支援のための政策パッケージが用意されています。一例を挙げると、就労の有無にかかわらず保育園に入園しやすい環境にあり、保育園の選択肢も非常に多いことは特徴的です。

また、シンガポールの人々は大変子ども好き。南国特有の寛容なお国柄もあり、街へ出れば子どもたちへの温かい気遣いや、言葉がけ、まなざしを多く感じます。例えば、バスや電車ではベビーカー付近の乗客の方々がさりげなく乗降の手助けをしたり、座席や場所を譲ってあげたりしている光景は珍しくありません。一つ一つは大げさなことではありませんが、こうした人々のさりげない心遣いやおおらかさ、そして温かいホスピタリティーは、シンガポールの魅力の一つと言えるでしょう。

（ASEAN＋3マクロ経済リサーチオフィス、シンガポール）

＊本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



上／屋内植物園 Gardens by the Bay は人気の観光地で、子ども連れの家族も訪れる。空中遊歩道からはきれいな夜景を望むこともできる。
右／ Gardens by the Bay の屋内。大きな人工滝があり、大人は涼を感じ、子どもは滝から舞う水しぶきを楽しめる。